

---

# 星空はいつも

祢禰

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星空はいつも

### 【Nコード】

N6990A

### 【作者名】

祢禰

### 【あらすじ】

星空はいつも優しい言葉をくれる。昔を思い出す女の子の物語。

星空はいつも

親しみをこめて

僕達の大地を

静かに見つめてる

やさしく青く燃え

愛の歌ささやき

あこがれるはるかな

未来を夢見よと

ー 星空はいつもー

私は空を見ていた。

そらは綺麗で。そして嘘を付かなくて。優しくてー…そして何より私を好きで居てくれて。

昔何時も一人ぼっちだった私を空。貴方は無視をせず、私を見てくれた。

何時も嫌われて居たのに空。貴方は何時も笑いかけてくれた。

あの頃のアタシはすごく弱くて…イジメられていた。ダケド、空。貴方は無視をせず、何時も静かに聞いてくれた。

それがとても嬉しくて。

それでとても懂れて。

何時も空を見て居たあの頃…

「昔は良く見てたなあ。星空…私には星空しか友達は居なかったからネ。」

そう。あの頃は星空しか友達は居なかったから。

親はそんなアタシを嫌って何も言わないし。

そう。あの頃は星空しか友達は居なかったから。

親はそんなアタシを嫌って何も言わないし。何て無責任な親なのよ。

とか思いながらも弱いアタシはそんな事は言えなかった。

だけど

そんなアタシが大嫌いで。

そんな性格が嫌で。

何時も死にたくて。

親も信用出来なくて。

そして何より一人ぼっちだったのが悲しくて…

泣いてた。

何時も泣いてた。

その時声がしたんだ。

『泣かないで。もっと笑って？』

ひっくりした。

私に話かけるなんて滅多に無いから。

しかも優しい声で。

ぱつと振り返った。

話しかけたのはー…

星空だった。

『空サン…？』

星サン達が私を呼んだの？？』

『ああそうだよ』

嬉しかった。

アタシに話かけてくれた。

『コンニチワ。』

僕達は空と星。

君が泣いてたから声をかけたんだ。』

『どうしたんだい？』

：

アタシは黙り込んだ、

二人はちゃんと聞いてくれるかな？？

話を聞いて嫌いにならないかな？

とか。

私は色々迷った。

けど。

『…実わ…』

言うことに決めた、

二人なら

聞いてくれると思ったから。

話が終ると二人はニッコリと笑った。

『君は優しい子だね』

と一言呟いて。

でもまだ信じられなかった。

そしてほろりと口から言葉が出た。

『アタシが生きてて何か為になるのかな？』

アタシなんか死んだ方が良いのかな？』

すると空と星は言った、

そんな事はないよ。

人は何かを必ず持って産まれてくる。

そして命の尊さは

生きているモノ

皆同じなんだ。

だから

一つたりとも

なくなつてイイ命なんて

無いんだよ。

だから

死んだ方が良くなんて

間違いだよ。

と。

「ふう。あの後夢だつて気付いた時はびっくりしたなあ。ふふ」

むくっ

アタシは腰掛けていたソファから立ち上がり背伸びした。

そして呟いた。

「あの時は有難う、空サンと星サン。」

ねえ

あの夢の言葉



夢の中の言葉なのに

ねえ

不思議だね

今

考えたら

夢じゃ無いような

気がするんだ

空サン

星サン

貴方達の言葉は

今でも

アタシの心に残ってるよ

たとえ

あれが夢だとしても

アタシが救われたのは変わらないから

だから心を込めて

アリガトウ。

ねえ

アタシはもう大丈夫だから

他の子の所へお行き

そして

アタシの時見たいに

声を

かけてアゲてください。

だけど

忘れないで？

アタシは

星空を見るから

だから

必ず

返事をしてください。

何時までも

心を込めて

見守っています。

星空はいつも

憧れをひめて

僕達の大地に

静かによびかける

やさしくまどにゆれ

愛の歌ささやき

限りなくはるかな

うちゅうに旅立てと

（後書き）

こんにちわ（・・＊）

初小説デス

どうでしたでしょうか？！

未熟な私が書いた小説デスから全然駄目だったと思いますが（＊・

、）-

こんな小説を読んでくださって有難うございました！（　　　　）

/

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6990a/>

---

星空はいつも

2010年10月14日23時20分発行